

## 江馬元齡の医学史的漢詩文

について

青木 一郎

江馬元齡（文化九年—明治十五年）は大垣藩医二代春齡、江馬蘭齋の孫で、三代春齡元弘の次男、即ち四代春齡元益の弟である。元齡は通称、名は桂、字は秋齡、号を金粟きんすく、また黄雨楼主人といった。

蘭医学を岡研介、高野長英などに学び、安政三年（一八五六）三月、大垣藩校教授となり初めて洋学を講じた。優れた医学書、翻譯書を残しているが、獣医学訳書『和蘭馬療験方』は珍らしき書である。わが国の馬療に関する蘭書の訳書は極めて少ない。また、和蘭文法書『四格十品弁解』は最近まで著者不明とされていた特種なもので、彼の考えにより作成されたものといつてよい。

元齡は漢詩文を頼山陽を始め、同郷の梁川星巖、村瀬藤城、後藤松陰、神田実甫などに学んだ美濃文芸史上特異な

存在で、蘭医学者としてはまことに出色な漢詩人であった。彼は大垣の文化の中心となつて教育にも力を注ぎ、蘭医学はさておき漢学の塾をも開いた。

元齡は伯母細香の案内で山陽に初めて逢つた時、彼は十五歳であったが、山陽は「汝宜しく大器を成すべし、小成に安んずる勿れ」と、激励し、また後年その詩文を評して「これ坡翁（蘇東坡）一派のこと、はからざりき近頃我が社に出づとは」と、嘆賞した。

元齡の詩文集を『黄雨楼集』といつて、約三百五十首の詩と九十編の長文が収められている。これらの多くの詩文のなかから、医学書の序文、跋文などはともかく、とくに医学史に関係深きものを三、四紹介する。

（開業医）